

2020年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490100193	事業の開始年月日	平成24年2月1日
		指定年月日	平成30年2月1日
法人名	医療法人社団 清怜会		
事業所名	グループホーム 横浜鶴見の家		
所在地	( 230-0052 ) 神奈川県横浜市鶴見区生麦五丁目12番10号		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和3年3月15日	評価結果 市町村受理日	令和3年7月2日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/">http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/</a>
----------	---

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活に掃除、洗濯、食事の準備や片付け等各利用者に役割をもって規則正しい生活を送っていただいております。今年度は、新型コロナウイルス流行の中、感染対策を十分に行いながら、ご利用様が穏やかに安心して暮らせるよう職員一同より良い介護を目指してきました。感染拡大防止のため、遠くへの散歩や外出、買い物、近隣住民との交流等は実施できませんでしたが、晴天時は庭に出て外気浴を、雨天時はフロアで塗り絵や歌等を行い、レクリエーションに力を入れてまいりました。また、体を動かすことにも努め、ラジオ体操を毎日行っています。お庭には野菜やお花等を育てたり、鑑賞を楽しんだり、それらを活かして調理したりしています。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和3年4月22日	評価機関 評価決定日	令和3年6月21日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR鶴見線「国道」駅下車1分、京浜急行線「花月総持寺」駅から5分と交通の便に恵まれたところにあります。国道15号線（第一京浜国道）と旧東海道に挟まれた住宅地です。法人本社は静岡県の医療法人社団です。

<優れている点>

「家庭的な雰囲気の中で明るく笑顔と元気で安心して暮らせる横浜鶴見の家」の事業所理念を周知しています。掃除、洗濯、食事の準備や後片付けなど、利用者に役割を持ってもらい、規則正しい生活を送れるよう支援しています。家族へは、毎月担当職員から「家族への手紙」を送り、家族から確認した旨のサインをもらう仕組みになっています。利用者には、関係市区町村、地域の保険・医療・福祉サービスと密接に連携した支援が可能となっています。医療連携加算・看取り介護加算を行っています。外部評価の家族アンケートを参考に福祉サービスの質のさらなる向上を目指しています。

<工夫点>

コロナ禍で、4コースある近隣散歩、箱根駅伝応援、花見など事業所敷地外に出ることを控えていますが、庭での外気浴や、土起しから利用者が関わっている野菜や花の栽培は継続しています。収穫物が食卓に上ることもあります。リビングルームでのテレビ鑑賞、談笑、トランプ、カラオケといった各種レクリエーションなどを全員で楽しむ時間にも力を入れています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム 横浜鶴見の家
ユニット名	1号館

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
		○	4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		○	2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ご家族、ご利用者様の満足をめざし、ミーティングで、管理者、職員同士で話し合い、理念を共有し、常に実践しています。	開設時に決めた事業所理念「家庭的な雰囲気の中で明るく笑顔と元気で安心して暮らせる横浜鶴見の家」を継承しています。家族などには玄関の掲示板で知らせています。理念をミーティングで共有し、実践につなげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルス感染防止のため、実施していません。	町内会に加入しています。コロナ禍以前には公民館を利用して地域住民との交流を盛んに行っています。また、フラダンスのボランティアの来訪もあります。保育園とはコロナが収束した後に交流を再開する予定です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	新型コロナウイルス感染防止のため、実施していません。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナウイルス感染防止のため、実施していません。	コロナ禍以前は、利用者家族、民生委員、地域包括支援センター職員などの参加を得て2ヶ月ごとの第二火曜日に実施しています。要望や助言提案を受け、事業所の考え方を説明しています。提案を受け、夏祭りを屋内で実施するように変更しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	生活保護担当、地域ケアプラザの職員とは、サービス改善やご利用者様の要望などを話し合ったり、グループホームへの入居を検討されている方を紹介して頂いたり、空室情報を提供したり、連携を深めていけるよう努めています。	区の担当者、地域ケアプラザ職員とは常に連絡を取り合っています。通院付き添いが困難な家族に代わって区の職員が対応してくれたこともあります。コロナの影響で定期的なイベントや連絡会はありません。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束、スピーチロックなど、定期的な会議や社内研修の場でも話し合い、職員は意識してケアに取り組んでいます。	玄関は防犯安全を最優先に施錠しています。「身体拘束排除のための指針」を作成し、定期的に研修を行い、会議録への押印で周知状況を確認しています。「身体拘束適正化委員会」を設置し、3ヶ月ごとに開催しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ケアの一環として客観的に思考し、利用者の問題について共有するように指導しています。現時点で虐待と思われるような事例はないが、注意を払い防止に努めていきます。ミーティングでも話し合いの場を設けています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	専門知識を養う為、会議やミーティング等を活用し、研修会を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約事項の手順を踏んで説明し、不明な点があれば何時でも連絡して下さるようにと伝えます。リスク説明も行い、納得してから入所して頂きます。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	各階に意見箱の設置、毎月のお便りの返信の中に、ご利用者様やご家族様が気軽に意見や希望が言えるようにしています。面会に来られた時も、希望や意見を聞きだしています。それらも運営やご利用者様のケアに反映される様努めています。	毎月担当職員から「家族への手紙」を送り、家族から確認した旨のサインをもらう仕組みになっています。外部評価の家族アンケートを活用し、サービスの質の向上に努めています。各フロアに「ご意見箱」を設置しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎日の10分ミーティングを活用し、意見や提案・改善策などを話し合い、意見を取り入れホームの運営に反映させています。	職員からの提案で毎日、当日の出勤者が揃う時間帯に10分間ミーティングを開催し、意見や提案を出し合っています。会議での提案から入浴を行う日と行わない日を決め、行わない日は館内の清掃を実施することにしてしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人の能力、経験、特性を把握し、日々の業務、ケアの連携ができるような環境作りに努めています。毎日10分ミーティングを行い情報を共有することで安心できる環境作りを行っています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	より良い職場にする為の定期的な社内研修や、職員育成の研修を開催し職員のレベルアップを行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	当法人のグループ内での定期的な研修を行ってサービスの質の向上に取り組んでいます。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者の話を傾聴しながら要望や不安等を把握し、個々の関係作りに努めています。ご家族とも話し合い良い関係作りをしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご利用者様、ご家族の要望や希望、不安等を職員が把握し、理解したうえでそれに合った支援を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご利用者様の既往歴やライフスタイル、生活歴、ADL等を事前にアセスメントし、当ホームの生活に慣れて頂く様に支援します。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員がご利用者様の生活習慣を理解し、日々の生活が楽しいと思われる様な工夫をしています。散歩や家事などを共に行いながら過ごし良い関係を築いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族が面会に来られた時には、本人の近況や要望、不安等を伝え、ご家族や本人、職員と一緒に考えていける関係を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、外出の支援は実施できず、ご家族の面会も制限し、玄関の窓越しで実施しました。可能な限り、ご利用者様とご家族様に安心して頂けるように支援しています。	今年はコロナ感染予防のため、玄関で窓越しでの面会を行っています。希望する人には電話や手紙の支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者様一人ひとりが孤立しないように散歩・家事・レクリエーション等への参加を促し、ご利用者様同士の関係構築を視野に入れ、支援を行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスの利用が終了された方や他の事業所へ移られた方のご家族に連絡を取り、継続的な付き合いができるように心がけています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者様と接する中で表情、行動、反応で思いを汲み取っています。申し送りノートや介護詳細記録、ミーティングなどで情報を共有し、ケアプランに反映させています。	職員は利用者の生活歴などの基本情報を基に、レクリエーションや談笑時、入浴時などで利用者の思いを把握するようにしています。把握した情報は申し送りノートや介護詳細記録で共有し、ケアプランに反映させる仕組みとなっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご利用者様のライフスタイル、生活歴、これまでの生活環境を本人やご家族から聞き取り、検討し職員間で把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日バイタルチェックをし、体調の管理を徹底し、日々の変調を把握するように努めています。また、体重測定も毎月1回行っています。利用者様の有する力を見極め出来る事は行って頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	3カ月に1度ご利用者様の情報を収集し、サービス担当者会議、ご家族とADLの確認やモニタリングを行っています。	利用者情報をカンファレンス、アセスメント、モニタリングを基に3ヶ月ごとのサービス担当者会議（ケアマネジャー、管理者、計画作成担当者、当日出勤の職員及びリーダーが参加）で確認しています。状況により看護師・提携医・薬剤師などとも連携しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	サービス担当者会議を実施し、介護詳細記録に記載しています。ミーティングや申し送りノートを活用し、ケアの実践に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご利用者様や御家族様の状況、その時々々のニーズに対応した支援やサービスに取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	新型コロナウイルス感染防止のため、実施していません。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	医療連携体制により、当ホームの担当医の往診、看護師によってご利用者様、御家族様の安心を得られています。	事業所の協力医をかかりつけに変更しているほか、以前のかかりつけ医と併用しているケースもあります。定期往診以外に通院が必要な場合は、基本は家族対応ですが、状況に応じて職員が付き添うなど柔軟な対応をしています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	医療連携体制により、看護師が週1回来られ、職員の報告などで体調の相談、医師への報告、体調の管理を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者と御家族様が安心して治療できるよう医療機関との情報交換に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	御家族様に対して、重度化した際や終末期の支援をしている他施設の紹介を行っています。	終末期・重度化した場合の事業所の考え方について入居時に説明し、同意を得ています。利用者の状況変化に伴い、重度化した場合は終末期の支援をしている他施設を紹介するなど、再度家族などと話し合い、方針を共有することとしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	訓練と実施が伴うようミーティング、マニュアル等で事故発生に備えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災訓練を実施し、起こりうる災害を想定した避難方法の把握に努めています。今年度は、新型コロナウイルス流行のため、感染対策を十分に行った上で実施しました。火災を想定した避難訓練を行い、消防署から模擬消火器を借りてきて使い方を確認しました。	夜間想定を含む年2回の避難訓練を行っています。消防署から模擬消火器を借り、利用者と共に使い方を確認しています。3日分程度の食料や水を倉庫で備蓄保管しています。	いざという時に備え、食品以外の備品類（ヘルメット、カセットコンロなど）の備えについても検討し、備蓄品をリスト化し、適正に保管管理をすることも期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常に本人のプライバシーや自尊心に配慮した対応や声かけを社内研修、ミーティングで話し合い実践しています。	事務所内に「プライバシーポリシー」を掲示し、いつでも確認ができるようにしています。人権、認知症理解、接遇などの定期的な研修やミーティングでの話し合いを通し、意識を高めています。個人情報に関する書類は事務所で保管管理をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活における選択の場面では本人の意思を尊重しています。また、ご利用者様が職員に対して話しやすい雰囲気作りを心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースが違うことを重視し、職員側の都合を押し付けることの無いように留意し、ゆったりした雰囲気の中で、その人らしい暮らしができるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	1カ月に1度は訪問理美容にて好きな髪形に整髪しています。着替えの時はできるだけ好きな服を着て頂けるよう声かけをしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食材を出来る限り職員とご利用者様と一緒になって食材のチェック、調理・味見・盛付・配膳しています。	外部業者から届く食材を職員が調理しています。味付け、形態などは利用者の好みや嚥下状態に合わせています。食事前に口腔体操をしています。利用者は同席した職員と会話をしたり、必要な支援を受けたりしながら食事を楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	福祉メニューを提供しています。薄味を心がけ、職員も検食し、所見を記入しています。その人に合った食事量や食形態で提供することも心がけています。お茶タイム、おやつタイムを設けて水分摂取等にも気を付けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	各ご利用者様に応じた口腔ケアを行っています。定期的に訪問歯科にも来て頂き、歯科医から指導を受けています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄表に記録し、各人ごとの排泄パターンの把握に努め、失敗を減らすよう適宣声掛けしています。また、排泄の促しや誘導も行っております。さらに、排便の回数や形状などの確認にも努めています。	排泄の自立をしている利用者が多く、自分のペースでトイレに行っています。排泄表を活用し、必要な場合は声かけや本人の様子を見てトイレ誘導をしています。職員の適切な支援で利用者は現状維持を保っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	腸の働きを良くするように、運動や体操等を毎日実施しています。また、朝食には野菜を多く使用し食物繊維を取り入れるようにしています。排便が困難な方に関しては、主治医や看護師と相談し、アドバイスを頂いたり、適宜薬を処方して頂いています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴の順番などのご利用者様の意向もあり、楽しめるように柔軟に対応しています。	週2、3回の入浴を支援しています。その日の体調によってはシャワー浴、足浴、清拭対応をしています。入浴拒否がある場合は声のかけ方の工夫や日をずらすなどで対応しています。柚子や菖蒲といった季節の湯も楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ケアプランに従い、出来る限り日中の活動を多く促し、夜間の安眠に繋がれるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人の処方箋ファイル、申し送りノートなどで全職員が内容を把握できるようにしています。服薬時、間違い防止のため、本人への名前といつの薬かの確認を必ず職員が声に出して行い、飲み込みまでの確認を徹底しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	出来ることは可能な限りご利用者様にさせていただくようにしています。役割を持っていただき楽しみのある毎日を過ごされています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	新型コロナウイルス感染防止のため、実施していません。	コロナ禍で、事業所敷地外に出ることを控えています。庭での外気浴や、土起しから利用者が関わっている野菜の栽培は継続しています。4コースある近隣散歩、箱根駅伝応援、花見などは自粛しています。外出の再開はコロナ収束後と考えています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	要望があれば介護職員が私物の商品の購入をしています。新型コロナウイルス感染防止のため、買い物の同行は実施していません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	居室担当職員によるご利用者の様子や出来事等、御家族様へのお手紙に毎月書いております。手紙や電話のできる方には連絡できるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使いやすい物やなじみの物などを選んで使ってもらったり居室に置いています。フロアの飾りつけや家具の配置などは利用者と一緒に考えています。	日々の清掃のほか、これまで以上に手が触れるところは全て消毒する様に気をつけています。利用者の作品や季節感のある飾りつけなども観て楽しむことができます。テレビ鑑賞、談笑、トランプ、カラオケなど各種レクリエーションを皆で楽しむ時間もあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアにはテレビ、ソファ、ゲーム、本や雑誌などがあり、職員を交えて自由に過ごされております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人御家族様と相談をして、居心地よく過ごせるよう、なじみの物、好みのものを使っています。テレビ、ラジオ、音楽プレイヤー、お仏壇等も持ち込みしていただいています。	事業所の備え付け品もありますが、仏壇、タンス、家族の写真、キャップ、腕時計など本人の馴染みのものや愛用品を持ち込んでいます。職員は、清掃、整理整頓、衣類の入れ替え、不足品のチェックなど、快適さに配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	本人の状況に合わせた環境整備に努めています。本人の不安や混乱材料を取り除き、自立支援に繋げています。		

事業所名	グループホーム 横浜鶴見の家
ユニット名	2号館

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
		○	4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		○	2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ご家族、ご利用者様の満足をめざし、ミーティングで、管理者、職員同士で話し合い、理念を共有し、常に実践しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルス感染防止のため、実施していません。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	新型コロナウイルス感染防止のため、実施していません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナウイルス感染防止のため、実施していません。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	生活保護担当、地域ケアプラザの職員とは、サービス改善やご利用者様の要望などを話し合ったり、グループホームへの入居を検討されている方を紹介して頂いたり、空室情報を提供したり、連携を深めていけるよう努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束、スピーチロックなど、定期的な会議や社内研修の場でも話し合い、職員は意識してケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ケアの一環として客観的に思考し、利用者の問題について共有するように指導しています。現時点で虐待と思われるような事例はないが、注意を払い防止に努めていきます。ミーティングでも話し合いの場を設けています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	専門知識を養う為、会議やミーティング等を活用し、研修会を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約事項の手順を踏んで説明し、不明な点があれば何時でも連絡して下さるようにと伝えます。リスク説明も行い、納得してから入所して頂きます。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	各階に意見箱の設置、毎月のお便りの返信の中に、ご利用者様やご家族様が気軽に意見や希望が言えるようにしています。面会に来られた時も、希望や意見を聞きだしています。それらも運営やご利用者様のケアに反映される様努めています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎日の10分ミーティングを活用し、意見や提案・改善策などを話し合い、意見を取り入れホームの運営に反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人の能力、経験、特性を把握し、日々の業務、ケアの連携ができるような環境作りに努めています。毎日10分ミーティングを行い情報を共有することで安心できる環境作りを行っています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	より良い職場にする為の定期的な社内研修や、職員育成の研修を開催し職員のレベルアップを行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	当法人のグループ内での定期的な研修を行ってサービスの質の向上に取り組んでいます。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者の話を傾聴しながら要望や不安等を把握し、個々の関係作りに努めています。ご家族とも話し合い良い関係作りをしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご利用者様、ご家族の要望や希望、不安等を職員が把握し、理解したうえでそれに合った支援を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご利用者様の既往歴やライフスタイル、生活歴、ADL等を事前にアセスメントし、当ホームの生活に慣れて頂く様に支援します。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員がご利用者様の生活習慣を理解し、日々の生活が楽しいと思われる様な工夫をしています。散歩や家事などを共に行いながら過ごし良い関係を築いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族が面会に来られた時には、本人の近況や要望、不安等を伝え、ご家族や本人、職員と一緒に考えていける関係を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、外出の支援は実施できず、ご家族の面会も制限し、玄関の窓越しで実施しました。可能な限り、ご利用者様とご家族様に安心して頂けるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者様一人ひとりが孤立しないように散歩・家事・レクレーション等への参加を促し、ご利用者様同士の関係構築を視野に入れ、支援を行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスの利用が終了された方や他の事業所へ移られた方のご家族に連絡を取り、継続的な付き合いができるように心がけています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者様と接する中で表情、行動、反応で思いを汲み取っています。申し送りノートや介護詳細記録、ミーティングなどで情報を共有し、ケアプランに反映させています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご利用者様のライフスタイル、生活歴、これまでの生活環境を本人やご家族から聞き取り、検討し職員間で把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日バイタルチェックをし、体調の管理を徹底し、日々の変調を把握するように努めています。また、体重測定も毎月1回行っています。利用者様の有する力を見極め出来る事は行って頂いてます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	3カ月に1度ご利用者様の情報を収集し、サービス担当者会議、ご家族とADLの確認やモニタリングを行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	サービス担当者会議を実施し、介護詳細記録に記載しています。ミーティングや申し送りノートを活用し、ケアの実践に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご利用者様や御家族様の状況、その時々々のニーズに対応した支援やサービスに取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	新型コロナウイルス感染防止のため、実施していません。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	医療連携体制により、当ホームの担当医の往診、看護師によってご利用者様、御家族様の安心を得られています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	医療連携体制により、看護師が週1回来られ、職員の報告などで体調の相談、医師への報告、体調の管理を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様と御家族様が安心して治療できるよう医療機関との情報交換に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	御家族様に対して、重度化した際や終末期の支援をしている他施設の紹介を行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	訓練と実施が伴うようミーティング、マニュアル等で事故発生に備えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災訓練を実施し、起こりうる災害を想定した避難方法の把握に努めています。今年度は、新型コロナウイルス流行のため、感染対策を十分に行った上で実施しました。火災を想定した避難訓練を行い、消防署から模擬消火器を借りてきて使い方を確認しました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常に本人のプライバシーや自尊心に配慮した対応や声かけを社内研修、ミーティングで話し合い実践しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活における選択の場面では本人の意思を尊重しています。また、ご利用者様が職員に対して話しやすい雰囲気作りを心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースが違うことを重視し、職員側の都合を押し付けることの無いように留意し、ゆったりした雰囲気の中で、その人らしい暮らしができるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	1カ月に1度は訪問理美容にて好きな髪形に整髪しています。着替えの時はできるだけ好きな服を着て頂けるよう声かけをしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食材を出来る限り職員とご利用者様と一緒にになって食材のチェック、調理・味見・盛付・配膳しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	福祉メニューを提供しています。薄味を心がけ、職員も検食し、所見を記入しています。その人に合った食事量や食形態で提供することも心がけています。お茶タイム、おやつタイムを設けて水分摂取等にも気を付けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	各ご利用者様に応じた口腔ケアを行っています。定期的に訪問歯科にも来て頂き、歯科医から指導を受けています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄表に記録し、各人ごとの排泄パターンの把握に努め、失敗を減らすよう適宣声掛けしています。また、排泄の促しや誘導も行っております。さらに、排便の回数や形状などの確認にも努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	腸の働きを良くするように、運動や体操等を毎日実施しています。また、朝食には野菜を多く使用し食物繊維を取り入れるようにしています。排便が困難な方に関しては、主治医や看護師と相談し、アドバイスを頂いたり、適宜薬を処方して頂いています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴の順番などはご利用者様の意向もあり、楽しめるように柔軟に対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ケアプランに従い、出来る限り日中の活動を多く促し、夜間の安眠に繋がられるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人の処方箋ファイル、申し送りノートなどで全職員が内容を把握できるようにしています。服薬時、間違い防止のため、本人への名前といつの薬かの確認を必ず職員が声に出して行い、飲み込みまでの確認を徹底しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	出来ることは可能な限りご利用者様にさせていただくようにしています。役割を持っていただき楽しみのある毎日をご過ごされています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	新型コロナウイルス感染防止のため、実施していません。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	要望があれば介護職員が私物の商品の購入をしています。新型コロナウイルス感染防止のため、買い物の同行は実施していません。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	居室担当職員によるご利用者様の様子や出来事等、御家族様へのお手紙に毎月書いております。手紙や電話のできる方には連絡できるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使いやすい物やなじみの物などを選んで使って頂いたり居室に置いています。フロアの飾りつけや家具の配置などは利用者と一緒に考えています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアにはテレビ、ソファ、ゲーム、本や雑誌などがあり、職員を交えて自由に過ごされております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人御家族様と相談をして、居心地よく過ごせるよう、なじみの物、好みのものを使っていただいています。テレビ、ラジオ、音楽プレーヤー、お仏壇等も持ち込みしていただいています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	本人の状況に合わせた環境整備に努めています。本人の不安や混乱材料を取り除き、自立支援に繋げています。		

2020年度

事業所名 グループホーム横浜鶴見の家

作成日： 令和3年 6月 30日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	21	レクリエーションへの参加があまり積極的でない利用者がいる。	レクリエーションや好きなことへの参加が増える。	できるだけ声掛けをし、無理のない範囲で参加を促す。参加が難しい場合は、孤立しないよう、レクリエーションに替わるその人の好きなことやできることを見つけ、自然に取り組めるよう支援する。	6ヶ月
2	35	災害時の備品のリスト化がされていない。	災害時の備品のリスト化。	食料品の賞味期限や必要な物品を確認し、不足のものは揃え、リスト化し、保管方法がわかるようにしておく。	6ヶ月
3	46	夜間、安眠できていない利用者がいる。	利用者の夜間の安眠。	対象利用者のカンファレンスを行い、原因を考え、安眠に繋げる方法を検討していく。日中の活動を増やす。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月